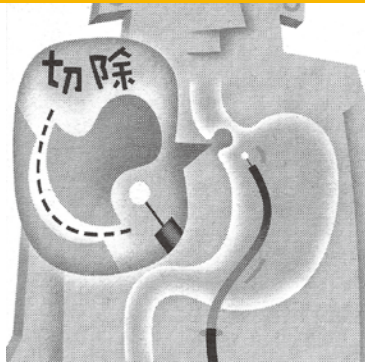


2015年10月9日号

# 週刊ポストで特集 されました!



イラスト/いかわ やすとし

胃がんは粘膜に発生するため、胃の痛みや不快感などの自覚症状がある。しかし、GISTは胃や小腸など消化器の粘膜の下にある筋肉層から発生するので、ほとんど自覚

あなたを癒やす  
天心 第447回  
ふーん、ナルホド 伝身

**粘膜下で転移するGISTに  
低侵襲の「単孔式内視鏡手術」**

GIST（消化管間質腫瘍）は、胃や小腸などの粘膜下の筋肉層に発生する腫瘍だ。中高年に多く見つかり、進行は遅いが放置すると増殖転移する。胃のGISTの治療は開腹手術が多いが、近年ヘソの穴から手術器具を入れる単孔式内視鏡手術でも行なえるようになった。腫瘍だけ切り取れば胃の機能を維持でき、傷もほとんど残らず、低侵襲の治療だと評価が高まっている。

症状がなく、健康診断で発見される例が大半だ。働き盛りに多く見つかり、大きくなると肝臓などに転移し、命に関わる。治療は大きさや部位によって開腹手術が行なわれる。早期の胃がんで口から内視鏡を入れて粘膜ごと、がんをそぎ取る方法が行なわれている。ただ、胃のGISTは粘膜の下に潜っているために、口からの内視鏡では取りきれないことが多く、胃を大きく切除するケースもある。メディカルトピア草加病院の金平永二院長に話を聞いた。

「開腹手術で全摘すると、胃の機能が損なわれるだけでなく、腹に大きな傷が残ります。従来の腹腔鏡手術でもヘソを含めて4つの傷が残ります。なんとかヘソの穴一つで、内視鏡治療ができないかと考えたのが単孔式内視鏡手術です。私はヘソの穴に装着するエックスゲートという専用の器具を開発し、そこからカメラや電



メディカルトピア草加病院 院長 金平永二

気メス、鉗子といった器具を入れて治療します。エックスゲートは、2012年に薬事法による審査に通り、多くの医師に使っていただけになりました。治療はヘソを約2・5センチ切り、エックスゲートのベースをその穴に装着する。フラップを4方向に引っ張ると、ヘソの穴が最大限に大きくなる。エックスゲートのベースに、カメラや電気メスなどの器具を入れる4つのチャンネル（入り口）がついた蓋を被せる。炭酸ガスで腹部が十分に膨らんだところで、チャンネルからカメラや電気メスなどを挿入し、健康な胃をなるべく残してGISTを切除する。切除したGISTは、細胞が散らばらないように袋に入れて外に出す。胃に空いた穴を筋肉ごと縫って閉じ、すべての器具を外に出した後で、ヘソも縫って終了する。「治療が難しいのが、食道と胃の境目にできたGISTです。近くを迷走神経という胃を働かせる神経が通っているので、通常は開腹して胃の全摘になりますが、私は内視鏡による胃内手術を行ないま

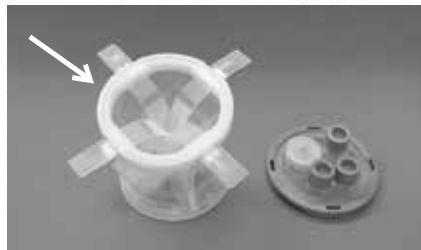
す」（金平院長）

（取材・構成/岩城レイ子）

す」（金平院長）

す」（金平院長）

### ヘソの穴に入れる「エックスゲート」



(\)4か所で行っているフラップを引っ張り、穴を最大限に広げる。右は4つのチャンネルの蓋。ここから手術器具を挿入する